

議会報告



第417号



市議会議員

岩室 年治



市議会議員

橋爪 明子

日本共産党逗子市議会議員団

発行2008年2月 「逗子民報」議会報告版

市役所 873-1111 (控室内線416) 事務所 沼間2-15-4 871-1321

1面 機構改革、病院 一般質問 2面 広域、池子、開発

第4回 定例会

第4回定例会は、11月27日から12月13日までの17日間で開かれ、事務分掌条例(機構改革)の全部改正を否決。職員給与条例と補正予算などを可決。意見書7件と決議1件を可決。また、閉会中継続審査のまちづくり基本計画案を賛成多数で可決しました。

事務事業の見直しもなく拙速な提案

機構改革案を否決

検討後、9月報告書を提出。12月に提案したものです。総務常任委員会でも否決。本会議で共産党、民主党、公明党など反対13、賛成は次世代など6名、退席1で否決されました。

1部に2名以上の部長

今回の特徴は、まちづくりの一元化を目指し、都市整備部と環境部を統合。1部を減らしスリム化を図るとされていました。

しかし、「課」は減っておらず、1部内に部長と担当部長が存在する体制からも到底スリム化と言えるものでなく、又事務事業の見直しも行われていませんでした。

監査の弱体化? 提案段階で断念

報告書では監査委員会に公平委員会等の事務を兼務させる。選挙管理委員会を総務課に移すとされていました。しかし、提案前に監査委員会から「監査機能が低下する」と厳しく指摘され撤回。党は定期監査の隔年実施を毎年実施にもどし、監査機能の強化を求めています。

生涯学習すべてを市長部局に?

教育基本法の「改正」で、生涯学習が正式に位置付けられ、教育委員会が担うことが求められていました。しかし、提案は生涯学習を市長部局に移管するものでした。共産党はあくまでも教育委員会が担い、市長部局との連携協力で推進する立場から慎重な対応を求めました。

子ども部で体制強化を

福祉部に「こども課」が提案されましたが、予算権限からも「課」から「部」への昇格を求めました。

事務分掌条例の全部改正は、4月に「機構改革案検討プロジェクトチーム」が設置され、わずか約4ヶ月間の

効果がない汚泥減量剤使用問題

浄水管理センター(写真)の下水汚泥処理のため19年度本格的に導入された汚泥減量剤(REウォーター)が年度途中で使用をやめた問題で質しました。市は18年度の実機実験データに基づいて脱臭効果と汚泥減量効果を得られると判断し契約。その後全く効果が得られず使用を停止したと説明。十分な科学的検証もせず、2年間に600万円も血税がムダになりました。市長は「今後、無駄のないように全力を挙げたい」と答弁。責任に言及しませんでした。党は行政に問題もあり、その結果に対し誰一人責任をとらない体質を厳しく批判しました。



子育て支援 妊婦健診の公費助成5回以上に

国は妊婦健診を14回、公費負担は最低5回程度を行うように通知。市は現行2回から増やす方向で財政も考慮し検討したいと答弁。又、公費負担の5回以上の拡充求める陳情は継続審査に。党は採択を求めました。



子ども権利条例と男女共同参画条例の制定を

子育ての政策推進、男女共同参画プランの推進からも条例の制定を求めましたが、市は「環境づくりは究極目標、性急な条例より施策を展開し市民意識の高まった状況もみて適切な時期に条例化を検討したい」と消極的な答弁にとどまりました。

退職手当債 財政に影響大 総額十数億円発行(借金)へ

団塊世代の大量退職者による退職手当は、19年度から5年間に毎年約3億円程度、ピーク時には最高4億円が必要となります。退職手当債は総額十数億円、毎年1億から2億円の返済を想定していることを明らかにしました。当分の間は財政に影響を及ぼすこととなります。

病院誘致 委託費の1億3千万円は、事質上の赤字補てん 財政見直しもなく、ヨゼフ病院と確認書締結

党は、病院誘致推進の立場から「誘致促進条例」(経営の赤字ほてんは禁止)にも賛成し、取り組んできました。しかし、市が負担する委託費1億3千万円に疑問が生じています。名目上は救急医療経費ですが、他市町村でもこのような多額な負担はなく、横浜市では1病院800万円に過ぎません。ヨゼフ病院側は「委託契約がなければ進出はできない」と強く主張し負担を求め、市長が締結した「確認書」でも明記させています。また、市は提供用地の無償貸与(年間4千万円程度)を約束しています。



沼間の病院予定地

脳出血など対応できず高度な救急か?

救急は1次は市町村、2次は広域(三浦半島)の責任で取り組み、現在もヨゼフ病院は輪番体制(年間300日程度)に組み込まれていますが、今回は、輪番とあわせて市負担で24時間365日内科・外科、小児は週2日の体制を実施します。但し、脳出血など重篤患者は対応できないとされています。



QRコードを使って携帯電話で
党議員団のブログをご覧ください。

<http://www.jcp-zushi.jp/>



